**報告書**

|  |  |
| --- | --- |
| クラス番号 | R4SA01 |
| 氏名 | 青木宇宙 |
| 提出日 | 2021/07/16 |
| 期間 | 2021/07/12 ~ 2021/07/16 |

**研究テーマ：**

●既存のタスク管理アプリはビジネス向け・個人向けのみで学生に特化したものは存在しない。

●コロナウイルス蔓延による遠隔授業・オンライン就活が重なった私たちの世代は、学校からの連絡（課題）・企業からの連絡がメールに集中し、潜在タスク・優先順位の管理が大変で不便に感じる場面が多々あった。

以上2点から学校(講師)とのやり取りに特化した学生向けのタスクの管理（主に可視化）をテーマとし卒業研究とする。

〇概要

既存アプリを対象とし方式ごと（カレンダー方式・ToDoリスト方式）にタスクの可視化（表示方法のみでなく入力方法・独自機能・入力項目・カラーバリエーション等）方法を調べ調査レポートにまとめる。(データ1)(データ2)

若者向けに当てられた研究内容(色・フォント・感じ方・アプリの使用(場所・頻度)など)を調べ、根拠を集める。根拠をもとに仮説を立てる。(データ3)

データ3をもとに、実際にアプリを作成し、データ1とデータ2との比較と評価を行い、研究成果とする。（現状、学生観点のタスク管理方法についてのデータが存在しないため研究として成り立つという考え方）

**確認事項**：

１．個人の作業内容（今週・来週・現在の工程）

２．現状の問題点

３．問題点に対する対策

４．メンバーの作業内容

５．メンバーの進捗

６．全体のスケジュール（メンバーの現在の工程・年間）

７．全体の進捗

８．来週の予定（メンバー・チーム）

９．現状の問題点（メンバー・チーム）

１０．問題点に対する対策（メンバー・チーム）

**１．個人の作業内容（今週・来週・現在の工程）**

今週

設計書作成

作業サポート

来週

設計書作成

作業サポート

現在の工程

設計書作成中

**２．現状の問題点**

設計書を書いていく中で、足りない部分などの不安要素が多くみられる

**３．問題点に対する対策**

開発を開始した時に、設計書の段階で足りていない部分や追加要素を減らすためにも、もっとチームで話し合い、レイアウトなどを使って、完成イメージを立てる。

**４．メンバーの作業内容**

清さん

・仮説を立てるのに使えそうな論文の検索

長井さん

・調査方法をチームで一度揃え、再度仮説検討用の調査・資料作成（学生世代に有効な可視条件・ＶＤＴの作業調査について）→仮説検討用資料\_長井.docx

渡部くん

・若年者に対する色の研究論文集め

・設計書作成

澤野くん

・画面レイアウトに必要な調査資料集め

**５．メンバーの進捗**

レイアウトを作成してもらうのですが、うまく調べた内容を反映できるかが大きな問題になる可能性が高いです。

**６．全体のスケジュール（メンバーの現在の工程・年間）**

メンバーの現在の工程

予定通りメンバーには若者という観点書かれた論文などの根拠を集めて行ってもらっています。

年間

調査　→　研究　→　アプリ作成　→　評価　→　結論

**７．全体の進捗**

完成（発表できる状態）が100％とすると、まだ53％ほどだと感じます。

スケジュール通りにいけば完成まで持っていけると思います。

実際にレイアウトにどう反映するかをスムーズにできれば早く進むと思います。

**８．来週の予定（メンバー・チーム）**

メンバー

集めた資料を基にレイアウト作成していく。

チーム

調査で集めた内容をレイアウトにどう反映させるかを話し合う。

レイアウトを作成するのと同時に、アプリの流れなどを把握する。

**９．現状の問題点（メンバー・チーム）**

メンバー

メンバーの問題点はありません。

チーム全体

・新たな作業を始めるときに足並みが揃っていない（理解の深度差）

・レイアウト作成するために必要な研究の量がわからない

**１０．問題点に対する対策（メンバー・チーム）**

メンバー

問題なさそうです。

チーム

・わからないことがあった時、「多分こうだろう」じゃなく理解するまで確認することを徹底する。

・ある程度集まったら、レイアウトをいったん作成してみて足りないと思うか所をまた集める。